

## 令和2年度「第3回福島県日本型直接支払交付金第三者委員会」を開催しました。

令和3年2月9日に「第3回福島県日本型直接支払交付金第三者委員会」を杉妻会館（福島市杉妻町3番45号）にて開催しました。

荒井委員長をはじめ、6名の委員の方へ出席いただき、日本型直接支払交付金の令和2年度の実施状況と令和3年度の推進方針、中山間地域等直接支払交付金に関する県特認地域について事務局から説明を行い、委員の皆様から御意見・御助言をいただきました。



○日時：令和3年2月9日（火曜日）10時00分～11時40分

○場所：杉妻会館 4階「牡丹」（福島市杉妻町3番45号）

○内容：日本型直接支払交付金の実施状況と推進方針について

- （1）多面的機能支払交付金について
- （2）中山間地域等直接支払交付金について
- （3）環境保全型農業直接支払交付金について
- （4）その他

## 第3回福島県日本型直接支払交付金第三者委員会 次第

日時 令和3年2月9日(火)

10:00~11:30

場所 杉妻会館(牡丹)

### 1 開 会

### 2 あいさつ

### 3 議 事

日本型直接支払交付金令和2年度実施状況と次年度の推進方針について

(1)多面的機能支払交付金について

(2)中山間地域等直接支払交付金について

(3)環境保全型農業直接支払交付金について

(4)その他

### 4 閉 会

令和2年度 第3回福島県日本型直接支払交付金第三者委員会 議事録【概要版】

令和3年2月9日  
福島県環境保全農業課

別添シナリオに基づき、議事(1)～(4)について、荒井委員長座長のもと協議した。

【議事】

- 1 各事業について各担当主任より、資料1～3、参考資料3-1～3-3に沿って説明した。  
質問、意見は以下のとおり。

〈多面的機能支払交付金〉

( 委 員 ) 1. コロナ禍にあつて、それぞれの組織の活動に影響があつたのか。

(全事業に共通する質問)

- ① 令和3年度以降も同じ状況が続けば、活動はどうするのか。
- ② 事務負担が大きいのは共通の課題。多面的機能支払交付金については事務委託する場合、有償とするのか。
- ③ 全国的に事務負担がすごく大きいというのであれば、解決策を考える必要がある。どのように考えているか。

( 担 当 主 任 ) 年度当初、新型コロナウイルス感染症対策の影響を受けて、地域毎に活動方法が変わつた。

多面的機能支払事業は共同活動を基本としており、少なからず影響を受けている。

- ① 草刈や花の植栽等の作業は、距離を取るなどの対策で可能。総会など人の集まりには、国の指導もあつて、書面決議等の方法で対応している例がある。
- ② 事務負担の解決に向けて、何が負担となっているのか状況を把握していきたい。市長村、組織等から意見伺い、検討する。

( 担 当 課 長 ) ① 新型コロナウイルス感染症による影響の事例として、一部の活動組織において今年度は都市部から人を呼ぶことができなかつた。

- ② 有償で実施している。
- ③ これまでも簡素化を図ってきたが、今後どのように簡素化していくかは、市町村や組織から聞き取りの上、国に要望していくが、交付金であるため、活動した内容について記録を残すなど、一定の事務手続きは必要となると考える。

( 委 員 ) 土地改良区ではこの事務を受ける意思はあるのか。

( 担 当 課 長 ) 既に17の土地改良区が委託を受けている。今年度も会津地方では、土地改良が独自の地域の方を集めて事務委託について話し合いを進めている。その他、JA、民間のコンサルタントなどにも委託している。

( 委 員 ) 有償になるが、行政書士にも事務委託が可能。

( 委 員 ) パソコンやネット環境に慣れていない方は、委託により事務負担がなくなると思うが、  
将来を考えると、地域の方が自分たちで出来るようになることも大事で、全面委託ではなく、一部地域の方にも関わってもらい、常日頃から一緒に事務を行うことで徐々に出来るようにすることも大切だと思う。  
地域によって状況は違うと思うが、そういった意識付けも進めていただきたい。

( 担 当 課 長 ) 事務委託だけを推進するということではなく、引き続きリーダー育成研修等も併せて実施していく。

#### 〈中山間地域等直接支払制度交付金〉

( 委 員 ) ① 日本型直接支払交付金は3種類あるが、提出する書類は交付金ごとに違うのか。  
② 事務作業の効率化を図るなら、提出する書類は簡素化し、全ての交付金に共通して使えるとよいと思う。効率化にあたり、今後の見通しがあれば教えていただきたい。

( 担 当 主 任 ) ① 提出の書類は全て別である。  
② 実態としてはまだ共通化されていない状況。  
多面的機能支払交付金と中山間地域等直接支払制度交付金については、共通化及び簡素化できる部分を整理し、国に要望していきたい。

( 委 員 ) ① 農村地域振興セミナーは、例年より参加人数が増えたのか。  
② 来年度以降 zoom 等の取組などは検討しているか。  
今年度、大学では、授業をオンラインで行っており、サテライト会場として一カ所に集めて配信する形でも行った。農業者が自分のパソコンを見ることができればセミナーの参加者はもっと増えると思う。

( 担 当 課 長 ) ① セミナーの参加者は、昨年度は300名程度で、今年度は280名程度。大きくは減っていない状況。  
② パネルディスカッションの zoom 配信については、行政担当者向けに行った。  
実際に高齢の農業者の方に zoom を使用して視聴をお願いするのは非常に難しいのではないかと考えており、今後については zoom 配信も含めて、開催方法を検討していきたい。

### 〈環境保全型農業直接支払交付金〉

- ( 委 員 ) ① 新型コロナウイルス感染症の影響で、事業が進まなかったという説明があったが、使わなかった交付金は5年間かけて使い切れればよいのか。それとも単年度精算で返すのか。
- ② 冬期湛水管理については、農業者の方も鳥インフルエンザウイルスの伝染を心配しているので、鳥インフルエンザに関する情報発信も併せて行ってほしい。
- ③ 委員になるまで、この交付金を知らなかった。県民には「今年の事業はこういう内容だ」という説明だけではなく、事業自体がどういうものか広報してほしい。
- ④ 取組農業者のモチベーションを維持する取組みや支援を行ってほしい。高齢者にとって、交付金の活動をするのは、ハードルが高い。取組農業者のモチベーションを維持のするためにも、例えば市町村のふるさと納税の返礼品に有機農産物など交付金で活動されている方の農産物の枠をつくるなど、具体的な販路を作る取組もしてほしい。
- ( 委 員 ) ① オンライン申請が始まるのは良いことであるが、そもそも書類を減らさないと意味がない。初めての方は、パソコンやネット環境に慣れた人にサポートしてもらえると良いと思う。
- ② 先日、GAPの研修で講師の先生が目の前のできることをやるといってお話を聞いて勉強になった。「自分ができることは自分でやる」ことは大切なことである。職種は違っても何事にも通じると思う。

( 委 員 長 ) 委員から出された意見を参考に今後、事業を進めてもらいたい。

2. その他「新たな農林水産業進行計画の策定について」農村振興課主幹兼副課長より説明  
新型コロナウイルス感染症の影響で審議が一旦ストップとなり、感染症対策の新たな検証を行い、審議することとなり、令和3年12月に答申される予定となったことについて説明した。
3. 事務局から令和3年度第三者委員会は、今年度と同様に3回実施し、第1回は、5月に開催を検討していることを説明した。